

## 今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書6章1~15節>

- ① キリスト教は何を伝えようとしているのでしょうか。それは、「神は、その独り子を与えてくださったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人の滅びないで、永遠の命を得るためである」ということであると答えることが出来ます。この言葉はヨハネによる福音書3:16に記されています。この福音書のみでなく聖書が伝えるイエス・キリストの言動はすべて、このことの現れです。
- ② イエス・キリストが、男だけでも5000人いる人々に、5つのパンと2匹の魚で満ち足らせられたという出来事は、奇跡です。その奇跡のことが「しるし」と言われています。神の愛が現されるしるしです。この出来事は、全ての福音書に記されていますが、ヨハネによる福音書では、イエス・キリストの言動が際立っています。ガリラヤ湖の向こう岸に渡られたこと、ついて来た群衆に目をとめられたこと、その人々に食べさせることを配慮されたこと、そして2つのパン5匹の魚を分け与えられたのも、イエス・キリストなのです。
- ③ 他方、それに対して、ここには、後手後手に回る弟子たちの姿が記されています。愛と認識とは不可分です、愛は相手を知ることです、相手に関心を持つことです。愛の反対は、憎しみとか敵対ではなく、無関心です。イエス・キリストの弟子たちは、足りない、役に立たないと、自分で考えた限界の中で、愛を忘れているのです。しかし、イエス・キリストは、この弟子たちの中で、人々を知り、関心を寄せ、行動され、人々と共に生きようとされ、弟子たちにその喜びを味わわせられます。弟子たちに残ったパン屑を集めさせると、12の籠に一杯になったというのです。足りない、役に立たないと言う弟子たちに対して、その僅かなものを感謝の祈りを以て配られると、驚くばかりの祝福がもたらされます。
- ④ そのイエス・キリストを信じるとは、どう言うことでしょうか。イエス・キリストは、自分を王にしようとする群衆から身を引かれたことによって、そのことが示されています。地上の政治的、経済的、社会的統治者としてのイエス・キリストを信じることはありません。「わたしの国は、この世には属していない」と言われます。病人を癒し、飢えを満たされるイエス・キリストではありますが、「山に退かれ」て祈られるイエス・キリスト、神に結ばれて人が生きる、その道を開かれるイエス・キリストです。